

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3291500035		
法人名	株式会社 あゆみ		
事業所名	グループホーム あゆみの杜		
所在地	島根県飯石郡飯南町頓原1070		
自己評価作成日	平成22年2月23日	評価結果市町村受理日	平成22年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://lllp://kouinyou-c.tukusni=shimane.or.jp/kajigosin/infomationPublic.do?LCD=3291500035&amp;SC">http://lllp://kouinyou-c.tukusni=shimane.or.jp/kajigosin/infomationPublic.do?LCD=3291500035&amp;SC</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成22年3月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

※「ともに歩み、ともに生きる」住み慣れた自宅を離れ、住み替えという選択となっても自宅の延長線と見え、穏やかに一人ひとりがその人らしくいられる場所を、つくっていきます。今後、地域の中でのその方を見つめ「どうありたいのか」という思いを大切に家族、地域の方等とゆったり、いっしょに、楽しみながら関わっていきます。  
 ※季節ごとのイベントの開催や音楽を通して交流を図っています。  
 ※地元のイベントにも積極的に参加し、地域の皆様との交流を深めています。  
 ※全館床暖房を採用しており、豪雪地帯の頓原にあって、冬も暖かく過ごしていただけます。  
 ※お風呂は併設の頓原ラムネ温泉のお湯を利用しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

介護が必要になっても、認知症になっても安心して地域の中で暮らしていける事業所として、温泉施設、小規模多機能ホームを隣接しており、地域との交流も積極的に行っている。地域の中で利用者一人ひとりが安心して自分らしく暮らせる支援と職員は利用者の機能の維持や向上、利用者や家族の思いや要望、意見を取り入れた個別ケアに取り組み、排泄の改善、歩行の安定などに結びつき喜びを共有できた。これからも研修しながら心のこもったケアを一つ々実践していくように取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとして明確な理念を掲げている。管理者は理念について職員に問うたり、会議での話し合い、日頃のケアや言葉掛けが理念に沿ったものかどうか職員と話し合っている。	地域密着型事業所としての独自の理念を作り、利用者の手で書かれたものが掲示されている。折に触れ管理者は理念について話し、職員と共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祭りなど地域の行事に参加したり、町内の保育所と積極的に交流を図っている。地域の有志によるグループとの交流を行っている。	地域の中の事業所として、夏祭りなどの行事や、保育園と合同のもちつき大会などに積極的に参加し地域に溶け込めるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に向けた実践報告会で当施設での介護の取り組みを発表したことにより、認知症の方の理解や支援の方法を共有する事が出来たのではないかなと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や日常生活の様子、行事等の報告を行っている。	利用者の様子や活動状況などを報告し、意見交換をしている。今までは家族や地域の人にグループホームを広く知ってもらうことに重点をおいていたが、今後会議内容を検討しさらに充実したいと考えている。	メンバーや内容を工夫しながら、運営推進会議が地域と共にホームの質の向上に活かせるように期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回のケア会議で、情報交換をしている。入居の際の連携や困難ケース等あれば、必要時に相談させて頂いている。	運営推進会議、利用前の相談、情報交換など平素から連携をとり協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。居室に鍵はなく、日中玄関の鍵はかけていない。夜間は、安全の為に施錠することになっている。	身体拘束や言葉での抑制などみんなで「しない」と勉強会を持ち職員間でお互いに注意しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアについては、入居者の全身状態を確認し、対応についても気になる点があれば、その都度注意するようにしている。学ぶ機会は十分に設けていない為、今後検討していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者があり、活用しているが制度について理解している職員は一部であり、学ぶ機会を十分に設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、疑問や不安が解消出来る様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営委員会・職員会・昼礼等活用し苦情等の報告を話し合い、全体で共有し必要な対応をとるようにしている。外部者へ表す機会は、現在設けていない。	家族の訪問時や運営推進会議などを利用し意見や要望を引きだすように努めている。それらは話し合い運営に反映している。	ホーム便りやおたよりなどで利用者の様子を報告したり、家族の意見や要望を聞く機会を増やしたり、聞きだす工夫をお願いしたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議で運営に関する報告を受け、意見や提案を聞く機会は設けているが、すべてが反映されているわけではない。	運営会議には主任が出席し、みんなの意見や提案をあげている。ヒヤリハット会議の中でも気づきや意見、提案などを聞く機会を持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況や勤務状況について報告もあり、把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的には進んでいないが、職員が研修案内を見て必要と思える研修は参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の担当者会、圏域のグループホーム部会に出席し、情報交換や勉強会に参加しているが、積極的には取り組んでいない。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居までのところで、家族・本人から話を聞ける機会を作っている。また、関わってこられたケアマネ等から意見を聞く様になっている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があれば家族の意見に耳を傾けて、信頼関係を築けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関わってこられたケアマネから、なぜこのサービスを選ぶ事になったかを聞き、その上で面接の機会を持ち本人や家族にとって他サービスが良いと思われる場合にはその点も含め相談をすることもある。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の何気ない一つの出来事でも共にする事で学ばせて頂く事も多いが、つい職員主体になってしまう事もあるので、職員間で連携を取りながら共にする事で、信頼関係を築く努力はしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者一人ひとりに担当職員を置き、何気ない出来事でも家族に伝え、家族と連絡を取り合うようにし、一緒に支えていけるよう心懸けている。家族会を企画し、利用者の方と一緒に過ごせる時間を持つようになっている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで生活されていた地域へドライブや祭りの見物に行き、馴染みのある方と話をしたり、風景を見られて「懐かしい」「良かった」という声を聞く事が出来ている為、今後も続けていきたい。	馴染みの場所やお店、お祭りに職員と一緒に出かけたり、家族や知人に声掛けをしたりして関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、話をしたり行動をする事で、徐々に親しくなられ利用者同士で話されたりしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在までに対象がない。今後は家族同意の上で関係を断ち切らない付き合いを大切に努めていきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に生活歴や本人・家族から意見等の聞き取りを行っている。日常生活・会話・行動から本人本位で検討しているが、情報不足な面は多い。	ドライブに一緒に行った時やお風呂、ソファに座って一対一でゆったりとした時に思いや意向を聞き把握している。困難な場合は表情や行動等から思いの把握に努めている。	さらに利用者の思いや要望を引き出し、職員や家族と話し合い思いを共有できるようにお願いしたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を元に、家族からの情報収集を行い把握することに努めている。一人ひとりの日常会話から新たな情報が収集出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報は聞いているが入居後本人、家族にとって「どうありたいのか」「どうあってほしいのか」等の話し合いが、本人、家族からの意見が十分に聞けていない。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族にとって「どうありたいのか」「どうあってほしいのか」等の話し合いが、本人・家族からの意見が聞けていない。	ケアマネージャーが介護計画を作成し、担当者を中心に定期的にカンファレンスを行い現状にあったプランに見直している。日頃から利用者や家族から希望や要望を聞いているがまだ不十分だと思っている。	これからの取り組みに期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子は個人の記録に記入しているが様子の内容が詳しく記入されてなく、実践や介護計画の見直しに活かされていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ、その都度で柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源全ては把握出来ていないが、利用者が必要とする地域資源は把握し、活用出来る様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅からの継続又は本人・家族の希望を聞き受診時の対応、情報提供を行い、主治医と連絡を取りながら適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診支援をしている。緊急対応や主治医や家族との連絡等安心して医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理は看護職員が協力病院や主治医と連絡を取りながら中心となって、行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、日常の様子を情報提供している。又、入院先に向く機会を多くし、情報収集している。その中で、医療機関との連携が取れるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	外部より講師を招き、ターミナルケアについての勉強会を行なった。現在までに対象はないが、家族や地域の関係者との話し合いは出来ている。具体的な検討を今後取り組んでいきたい。	契約時に利用者や家族の意向を聞いている。本人や家族が安心して過ごせるよう看護師の確保、職員の研修、医師や関係者との話し合いなど、具体的な準備に取りかかっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て全職員が、救急法の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を実施している。また、消火器・消火栓の使い方も指導して頂き学んでいる。運営推進会議に町の消防団から参加して頂いている。	利用者も参加して職員と一緒に避難訓練を実施している。次回は夜間想定での避難訓練を計画している。地域の消防団へ協力要請をしている。	災害に備えた備蓄と地域の人達との合同訓練をできることから取り組んでいきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な言動になることもあり、職員会や昼礼、その都度個人の尊重について、問題提起している。	入浴時やトイレ誘導の時は同性介護でさりげなく最小限の支援をしている。不適切な言葉かけや行動については職員間で話し合いお互いに注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に本人の思いや自己決定の支援が出来る様利用者一人ひとりに合った声掛けや、説明をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿った支援を心懸けているが、時間帯・状況によって希望に添えない時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族が散髪される方もある。服の選択については本人に任せながら支援している。女性の方には、化粧をしてもらう事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼり作りやおやつ作りに参加してもらうよう取り組んでいる。片付けや下膳は主に女性利用者が率先してやってくださっている。	食事は施設内で一括して作っている。食事が楽しみなものとなるように食べたいものを聞きメニューに取り入れている。下ごしらえやおやつ作り、後片づけなど利用者と職員と一緒にしている。	工夫して利用者と職員と一緒に食事が出来る機会を作っていたきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養バランスを考えた献立を利用者の体調等気をつけて摂取して頂いている。水分補給は寒天やゼリーなど作り摂取しやすく工夫した。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	外部講師を呼び、口腔ケア研修を実施。食後、実施しているが、確認が不十分である。義歯を使用されている方については、義歯の洗浄・消毒(週1回)やうがいをしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時・必要時のトイレ誘導や声掛けをしている。パットや紙パンツを使用する場合でも本人の状況に合わせて使い分けしている。	一人ひとりの排泄パターンや排泄前の行動を把握し、トイレ誘導をしている。紙パンツやパット、布パンツを使い分け自立にむけた支援をしている。夜間紙パンツからポータブル、トイレ誘導になり喜びを共有した。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表を活用している。出来るだけ「自然排便を」の考えで食事や野菜類を増やしている。また、水分補給などで調整もしている。やむを得ず、浣腸・下剤を使用する事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	併設の温泉の湯を使用している。入浴は希望があれば毎日でも入浴出来るが、職員の都合で入って頂く事もあり、見直しが必要。	利用者の希望に合わせて毎日でも入浴できる。嫌いな利用者にもタイミングや声かけ、チームプレイで人を替えたりし工夫しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活に合わせて休みたい時は、居室で休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院より、一覧表のコピーを頂き、ファイルにし内服の副作用等症状の変化に気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味や興味がある事を生活歴や本人との話の中で見つけ(将棋・庭の手入れ・カラオケ等)日常生活に取り入れて楽しんで頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望によって買い物に出かけたり、散歩やドライブ、町内のイベントに出掛けている。	一人ひとりの体調や希望にそって、ドライブ、近所や敷地内での散歩、買い物などに出かけている。季節に合わせて花見やりんご狩り、地域の祭り等への外出支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は金庫にて預かり保管しているが、買い物に出掛ける際には、職員が付き添った上で本人に手渡し買い物等をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時スタッフルームにある電話を使用し、話をして頂いている。家族や知人から電話がある際にも本人と話をして頂いている。手紙については職員が声掛けし、家族や大切な人へ手紙を書けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって過ごしやすく、使いやすい共用空間作り(テーブルの配置変え・手すりの設置等)を心掛けている。	長椅子では、食後の時間は利用者が談笑している。畳の間には昔懐かしい泥天神のお雛様が飾られ、共有空間は季節のイベントに使用したり、気分を変えて食事会をするなど、大切な場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール以外にもソファを設置し、利用者個々に合った場所で過ごして頂いており、利用者同士の会話もみられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた物を持って来てもらう様に本人や家族に話をして頂いている。生活の場が違って、使い慣れた物がある事で、少しでも本人の不安が取り除かれればと思ひ配慮している。	タンス、仏壇、時計など馴染みのものが置かれ、炬燵でお昼寝も出来る。一人ひとりの移動に合わせて手すりが付けてあり、利用者の自立と安全に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や各居室(必要に応じて)に手すりを設置し、本人が動きやすい環境作りを目指している。		